

[普及事項]

新技術名：ナシのナミハダニに対する新殺ダニ剤の防除効果（平成11～13年）

研究機関名 果樹試験場天王分場
担 当 者 高橋 功・深谷雅子

[要約]

マイトコーネフロアブル 1000倍は7月下旬から8月上旬のナミハダニの急増期に、またコロマイト水和剤 2000倍は8月～収穫前に使用すると、ナシのナミハダニの発生抑制に効果が高い。

[ねらい]

新しく開発された殺ダニ剤について、ナシのハダニ類に対する防除効果を検討し、実用性の高い薬剤を県防除基準に採用して、ナシ害虫防除体系の改善を図る。

[技術の内容・特徴]

- 1．ハダニ類の発生期に新しく開発されたコロマイト水和剤およびマイトコーネフロアブルを散布し、これまで使用されている殺ダニ剤と防除効果、薬害などについて比較検討した。
- 2．コロマイト水和剤は速効性で、ハダニの卵から成虫まで、いずれの発育ステージに対しても高い効果を示し、薬害も見られず、実用性がある（表1）。
- 3．マイトコーネフロアブルは幼虫と成虫に対し高い活性を有し、残効期間が比較的長く、薬害も見られず、実用性がある（表2）。

[普及対象範囲]

県内ナシ産地全域

[普及・参考上の留意事項]

- 1．両剤とも、1年1回使用とする。
- 2．コロマイト水和剤は8月～収穫期に使用する。葉がまだ柔らかい時期（5月～6月）や高温・乾燥時、また樹勢の弱っている樹に対して、葉に薬害を生じる恐れがあるので散布しない。また、他剤との混用は避け、単剤で使用する。特にオキシラン剤との混用は薬害を生ずる恐れがあるので注意する。西洋なし（ル・レクチェ）では果実に薬害を生ずる恐れがあるので袋かけ後に使用する。
分解の早い天然物由来の有効成分で、収穫直前まで使用できるが、残効性が劣るためかけもれのないように散布し、散布後の発生動向に注意する。
- 3．マイトコーネフロアブルは7月下旬～8月上旬のナミハダニの急増期に使用する。
- 4．両剤とも既存殺ダニ剤に対し薬剤抵抗性が発達したナミハダニに対しても効果が高い。

[具体的なデータ等]

表 1 コロマイト水和剤のナミハダニに対する防除効果 (秋田果樹試天王 平12年)

供試薬剤	希釈 倍数	10葉当たり成若幼虫数					防除 効率	薬害
		散布前	4日後	8日後	14日後	22日後		
コロマイト水和剤	2000倍	4.3	0.0	0.0	0.7	5.8	97	-
ピラニカ水和剤	1000倍	6.7	0.2	0.0	4.4	0.4	98	-
無 処 理		4.7	-	14.5	35.2	191.2	-	

供試品種：幸水16年生樹，1区1樹2反復

散布年月日：平成12年8月23日（オウトウハダニ混在）

表 2 マイトコーネフロアブルのナミハダニに対する防除効果 (秋田果樹試天王 平13年)

供試薬剤	希釈 倍数	10葉当たり成若幼虫数					防除 効率	薬害
		散布前	4日後	8日後	16日後	22日後		
マイトコーネフロアブル	1000倍	312.9	1.9	0.7	4.4	20.6	99.1	-
カネマイトフロアブル	1000倍	294.7	7.2	17.0	48.0	122.7	93.4	-
無 処 理		525.2	447.5	787.3	1204.5	2622.7	-	

供試品種：新星，幸水，長十郎，1区1樹3品種

散布年月日：平成13年7月18日（フジオキシランWP 600倍加用）

[発表文献等]

なし